

平成 23 年度
第 1 回 区民モニター報告書
「地震や津波に関するアンケート」



平成 23 年 11 月実施

大阪市此花区役所総務課（総合企画）

も く じ

【Ⅰ】調査の概要

- 1 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 調査の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 区民モニターの定数および回答者数・・・・・・・・・・・・ 1

【Ⅱ】調査結果について

- 1 地震・津波に対する関心はどの程度ありますか・・・・・・・・ 2
- 2 大地震が発生した場合、どのような危険を最も感じていますか・・・・ 3
- 3 普段から行っている準備や確認はどれですか（複数回答可）・・・・ 4
- 4 被災された時の収容避難場所・津波避難場所を知っていますか・・・・ 5
- 5 津波の避難警報・避難勧告などが発令されたら、どこに避難しようと思
いますか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 6 東南海・南海地震で津波が起こった際に、此花区に到達するまでの想定
時間は、地震発生から約2時間ということを知っていましたか・・・・ 8
- 7 津波の避難警報・避難勧告などが発令された場合、避難の際に
何を使って避難しようと思いませんか・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 8 災害発生時、家族や親せきとの安否確認などの連絡はどのような方法で
行うつもりですか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 1
- 9 ご近所にお住まいのお年寄りや障害のある方などをご存知ですか・・・・ 1 3
- 1 0 あなたは、お年寄りや障害のある方に対し、災害発生時に
手助けしたいと思いますか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4
- 1 1 町会や区役所が実施している防災訓練や講演会などに参加したことが
ありますか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 5
- 1 2 災害時にあなたが地域で担える役割で最も近いものはどれですか・・・・ 1 7
- 1 3 これから災害対策として優先順位の高いと思うものはどれですか
（3つ選択）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 9
- 「地震や津波に関するアンケート」・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 0

【 I 】 調査の概要

1 調査の目的

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災以降、災害時における危機管理について、区民の皆さんの関心が大きく高まっています。

此花区は大阪湾に面しており、また、海拔 0 メートル地域も多くあります。今後、高い確率で発生すると想定される東南海・南海地震が起こった場合には、津波をはじめ建物の倒壊、火災、液状化現象などによる被害が想定されます。

そこで、今回、地震や津波に関するアンケートを行い、区の防災に関して、区民の皆さんの防災に対する意識や日頃からの備え、さらに、地域での助け合いなどについてアンケート調査し、区民ニーズを的確に把握し、今後の区の防災施策を進めていくための参考とします。

2 調査の実施状況

調査期間：平成 23 年 1 月 11 日～平成 23 年 1 月 25 日

方 法：郵送及び電子申請アンケートシステム

対 象：区政モニター登録者（210名）

回 答 数：165票（なお、各質問の有効回答をn=165と表記する）

回 答 率：78.6%

3 区民モニターの定数および回答者数

		区民モニターの数			回答者数		
		男	女	計	男	女	計
計		106	104	210	78	87	165
年齢別	29歳以下	8	14	22	5	14	19
	30歳代	22	35	57	14	26	40
	40歳代	22	21	43	14	19	33
	50歳代	17	15	32	12	11	23
	60歳代	25	9	34	22	8	30
	70歳以上	12	10	22	11	9	20

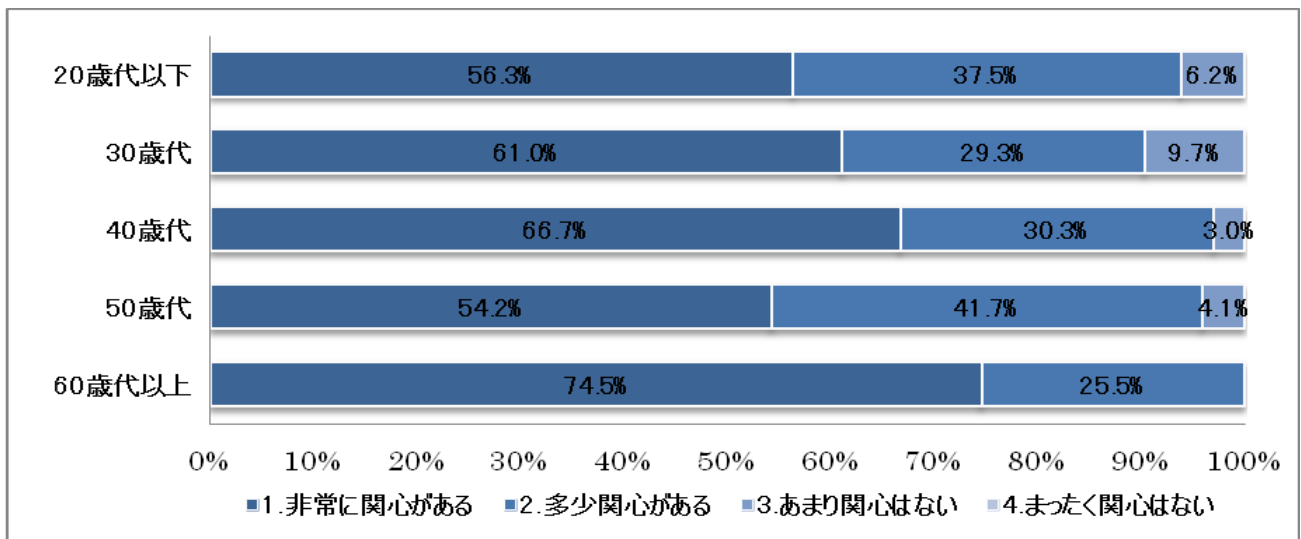
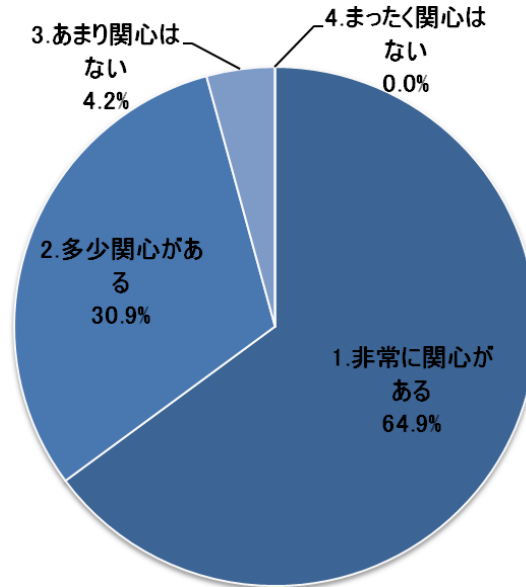
参考：各設問のnについては、回答対象者、【 】については回答数です。

【Ⅱ】 調査結果について

問1 地震・津波に関する関心はどの程度ありますか。

1、非常に関心がある	64.9%	【107】
2、多少関心がある	30.9%	【51】
3、あまり関心はない	4.2%	【7】
4、まったく関心はない	0.0%	【0】

n = 165



【分析・コメント】

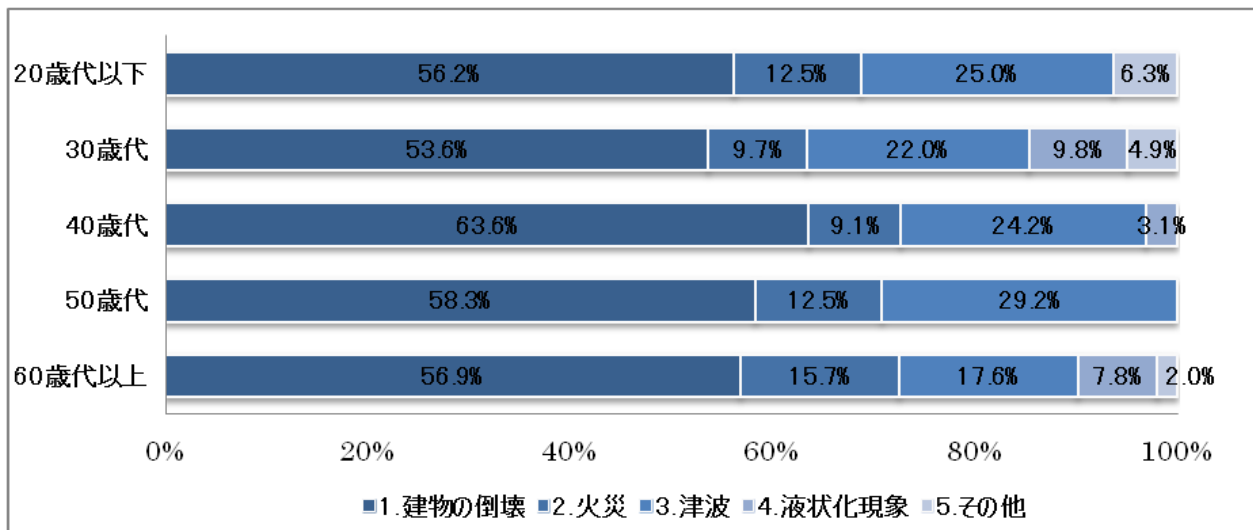
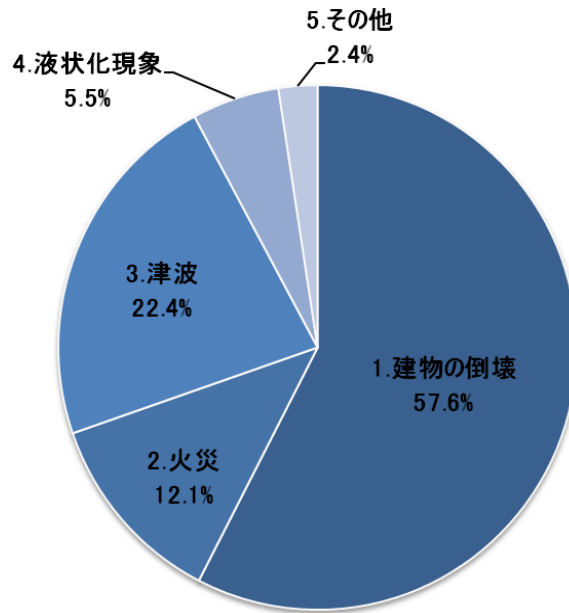
全体の6割以上の方が「非常に関心がある」(64.9%)と回答されており、「多少関心がある」(30.9%)と回答された方を合わせると9割以上(95.8%)にのぼり、地震・津波に関する強い関心の高さを示しています。この結果については、昨年3月に発生した東日本大震災による影響が大きく現れていると思われます。

年齢別に見ると、「あまり関心はない」と回答された方は、30歳代で9.7%、20歳代以下で6.2%と他の年代に比べて高いため、若い世代の無関心をなくしていく取組みが求められます(20歳代以下(6.2%)、30歳代(9.7%)、40歳代(3.0%)、50歳代(4.1%)、60歳代以上(0%))。

問2 大地震が発生した場合、どのような危険を最も感じていますか。

1、建物の倒壊	57.6%	【95】
2、火災	12.1%	【20】
3、津波	22.4%	【37】
4、液状化現象	5.5%	【9】
5、その他	2.4%	【4】

n = 165



【分析・コメント】

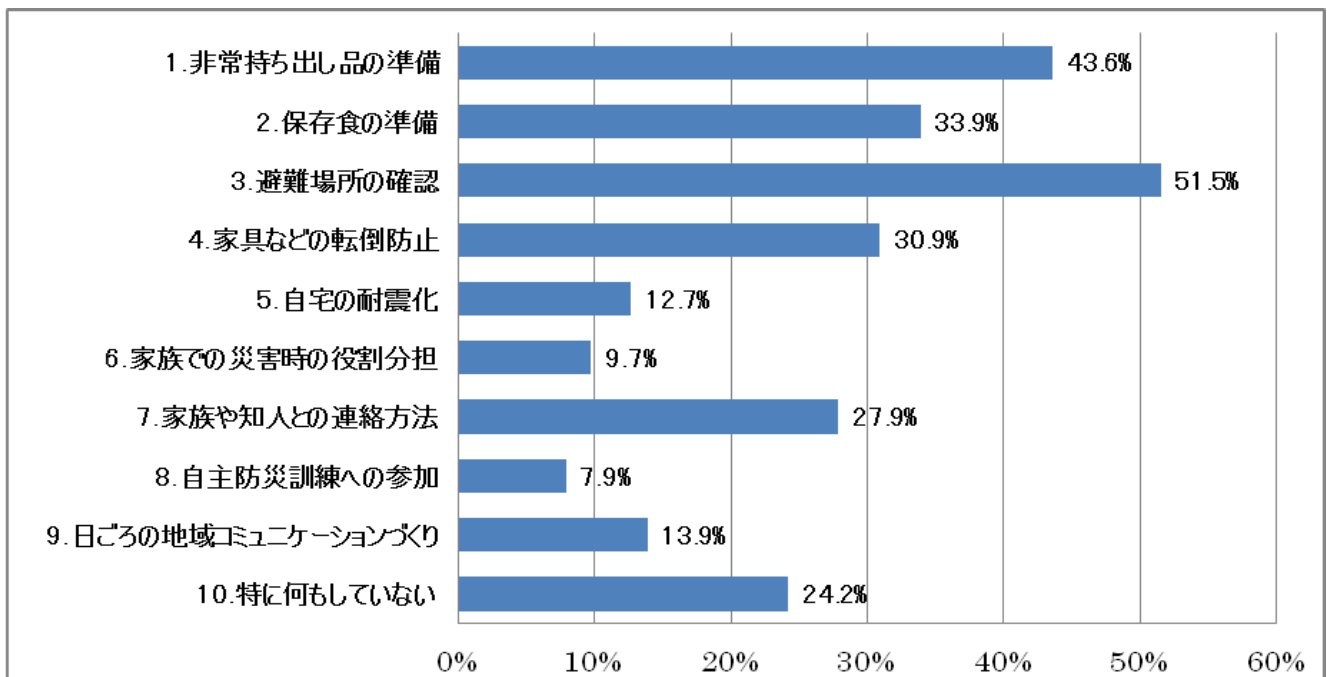
大地震が発生した場合、「建物の倒壊」をもっとも危険と感じると回答された方が5割以上(57.6%)を占めました。次いで、2割以上の方(22.4%)が「津波」と回答されています。

この結果から、関心度の高い「建物の倒壊」や「津波」に対する対策の必要性やそれらの災害から身を守るための啓発を行うことが求められていることがわかりました。

問3 普段から行っている準備や確認はどれですか。(複数回答可)

1、非常持ち出し品の準備	43.6%	【72】
2、保存食の準備	33.9%	【56】
3、避難場所の確認	51.5%	【85】
4、家具などの転倒防止	30.9%	【51】
5、自宅の耐震化	12.7%	【21】
6、家族での災害時の役割分担	9.7%	【16】
7、家族や知人との連絡方法	27.3%	【46】
8、自主防災訓練への参加	7.9%	【13】
9、日ごろの地域コミュニケーションづくり	13.9%	【23】
10、特に何もしていない	24.2%	【40】

n = 165



【分析・コメント】

普段から行っている取組みとして、「避難場所の確認」(51.5%)、「非常持ち出し品の準備」(43.6%)、「保存食の準備」(33.9%)、「家具などの転倒防止」(30.9%)が高い割合を占める一方、「特に何もしていない」(24.2%)と回答された方が2割以上おられました。

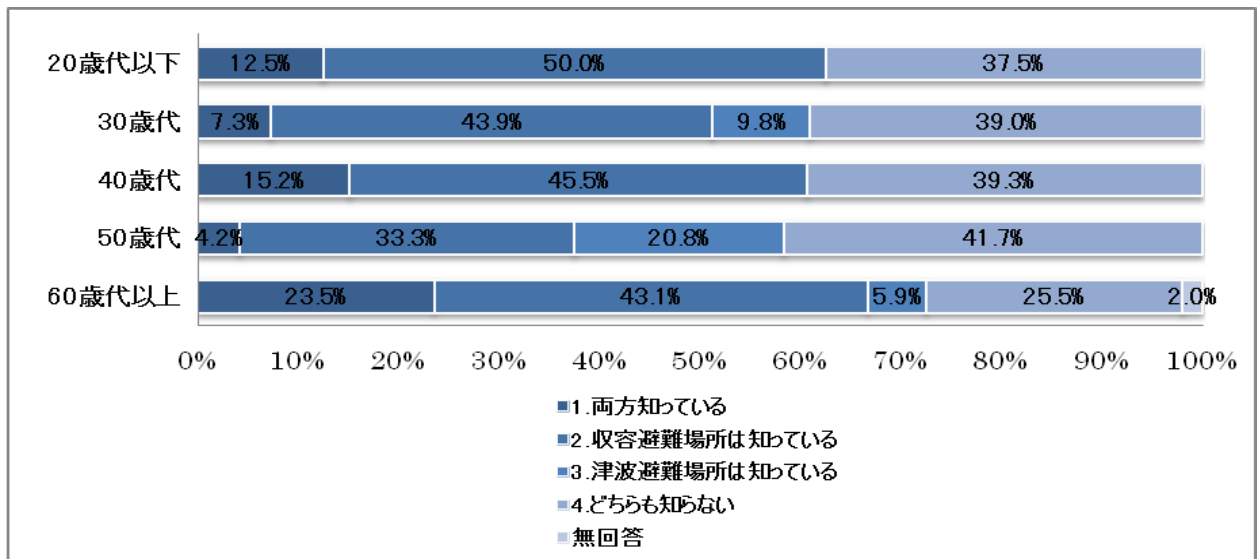
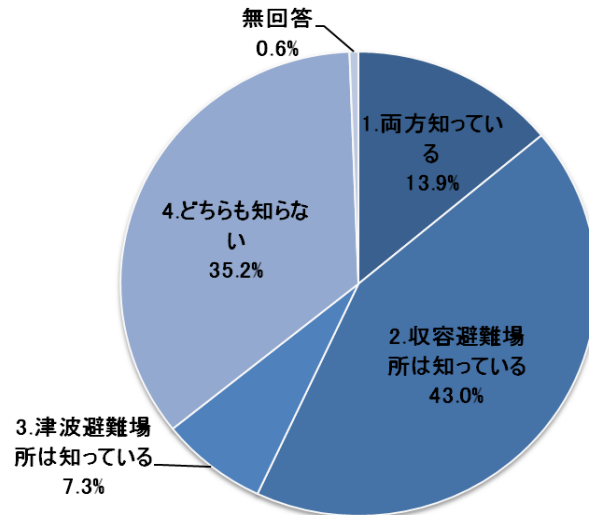
「特に何もしていない」と回答された方について年齢別に見ると、50歳代の方の割合が最も高く(37.5%)、次いで30歳代の方の割合が高い(31.7%)ことがわかりました(20歳代以下(31.3%)、30歳代(31.7%)、40歳代(15.2%)、50歳代(37.5%)、60歳代以上(15.7%))。

今後、あまり備えができていない項目については、重点的に周知・啓発を図る必要があると同時に、関心が低い年齢層を意識した内容を検討することも必要であると考えられます。

問4 被災された時の収容避難場所・津波避難場所を知っていますか。

1、両方知っている	13.9%	【23】
2、収容避難場所は知っている	43.0%	【71】
3、津波避難場所を知っている	7.3%	【12】
4、どちらも知らない	35.2%	【58】
無回答	0.6%	【1】

n = 165



【分析・コメント】

「収容避難場所は知っている」と回答された方（43.0%）が最も多かった反面、3人に1の方が「どちらも知らない」（35.2%）と回答されています。「津波避難場所を知っている」と回答された方（7.3%）は、「両方知っている」と回答された方（13.9%）と合わせても全体の2割（21.3%）にとどまっています。

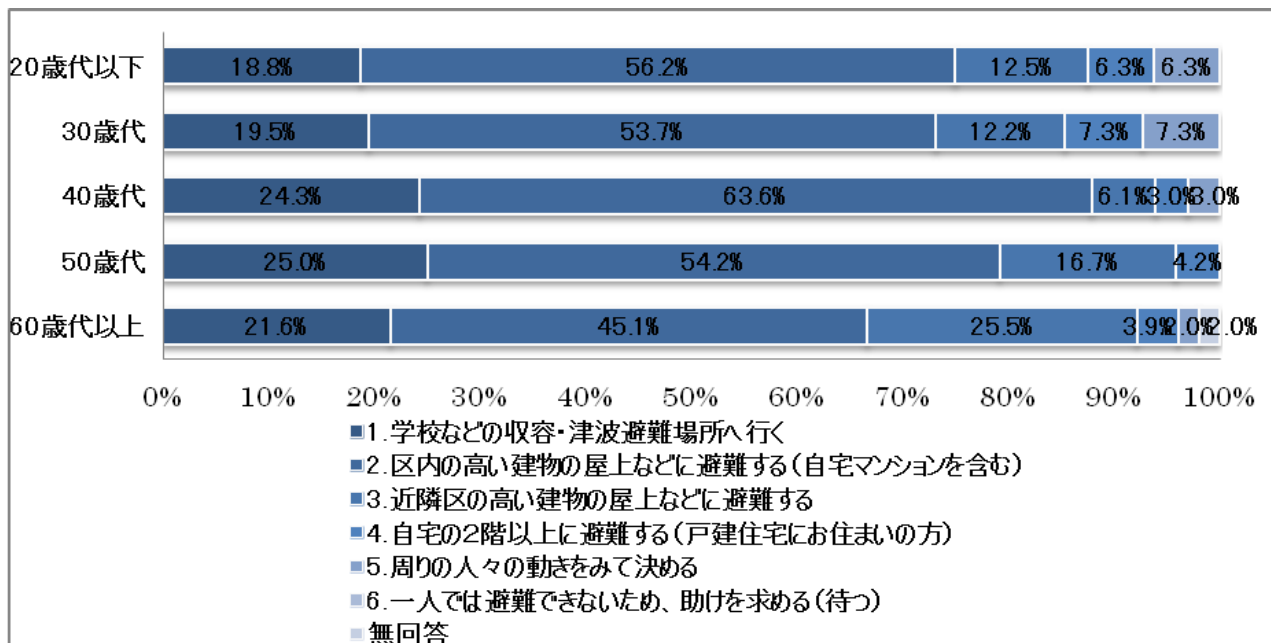
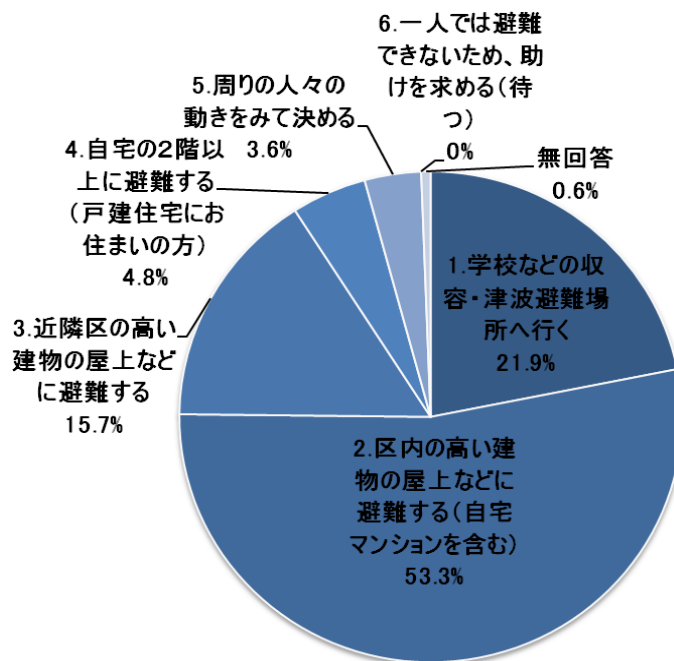
「どちらも知らない」と回答された方を年齢別に見ると、20歳以下（37.5%）、30歳代（39.0%）、40歳代（39.3%）、50歳代（41.7%）、60歳代以上（25.5%）となっており、60歳代以上の方以外の年齢層の方の割合が高くなっていることがわかりました。

以上の結果から、被災時の避難場所の周知・啓発を強化し、特に津波避難場所に関する広報を重点的に行う必要があることがわかりました。

問5 津波の避難警報・避難勧告などが発令されたら、どこに避難しようと思いますか。

1、学校などの収容・津波避難場所へ行く	21.9%	【36】
2、区内の高い建物の屋上などに避難する (自宅マンションを含む)	53.3%	【88】
3、近隣区の高い建物の屋上などに避難する	15.8%	【26】
4、自宅の2階以上に避難する (戸建住宅にお住まいの方)	4.8%	【8】
5、周りの人々の動きをみて決める	3.6%	【6】
6、一人では避難できないため、助けを求める(待つ)	0.0%	【0】
無回答	0.6%	【1】

n = 165



【分析・コメント】

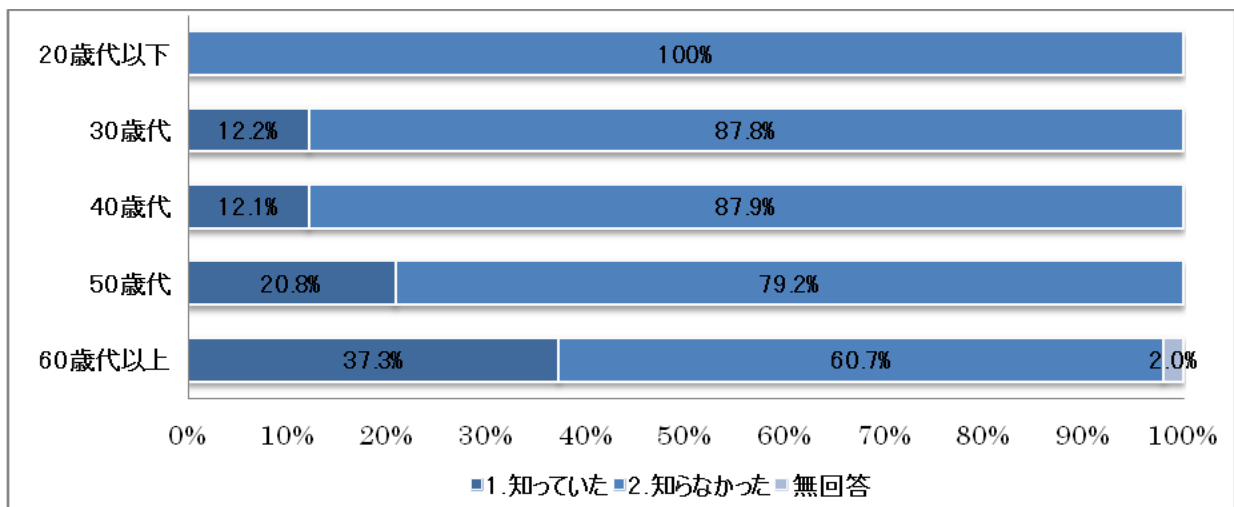
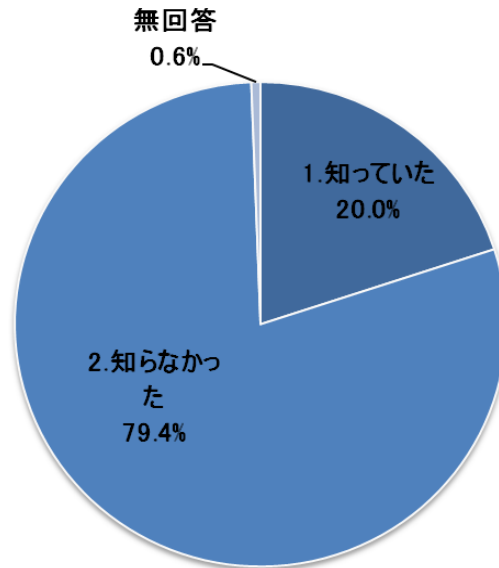
全体の 5 割以上の方が「区内の高い建物の屋上などに避難する（自宅マンションを含む）」（53.3%）と回答されており、次いで 2 割以上の方が「学校などの収容・津波避難場所へ行く」（21.9%）と回答されています。「近隣区の高い建物の屋上などに避難する」（15.8%）と回答された方を合わせると、津波の避難警報・避難勧告などが発令された場合、9 割以上の方が津波避難場所や高い建物の屋上に避難しようと考えていることがわかりました。

津波が発生した際は建物の 3 階以上に避難することが有効であると言われているため、今後の周知方法として、高い建物の 3 階以上に避難を促すことが必要であると思われます。

問6 東南海・南海地震で津波が起こった際に、此花区に到達するまでの
 想定時間は、地震発生から約2時間ということを知っていましたか。

1、知っていた	20.0%	【33】
2、知らなかった	79.4%	【131】
無回答	0.6%	【1】

n = 165



【分析・コメント】

「知らなかった」(79.4%)と回答された方が全体の8割近くを占め、「知っていた」(20.0%)と回答された方を大きく上回りました。

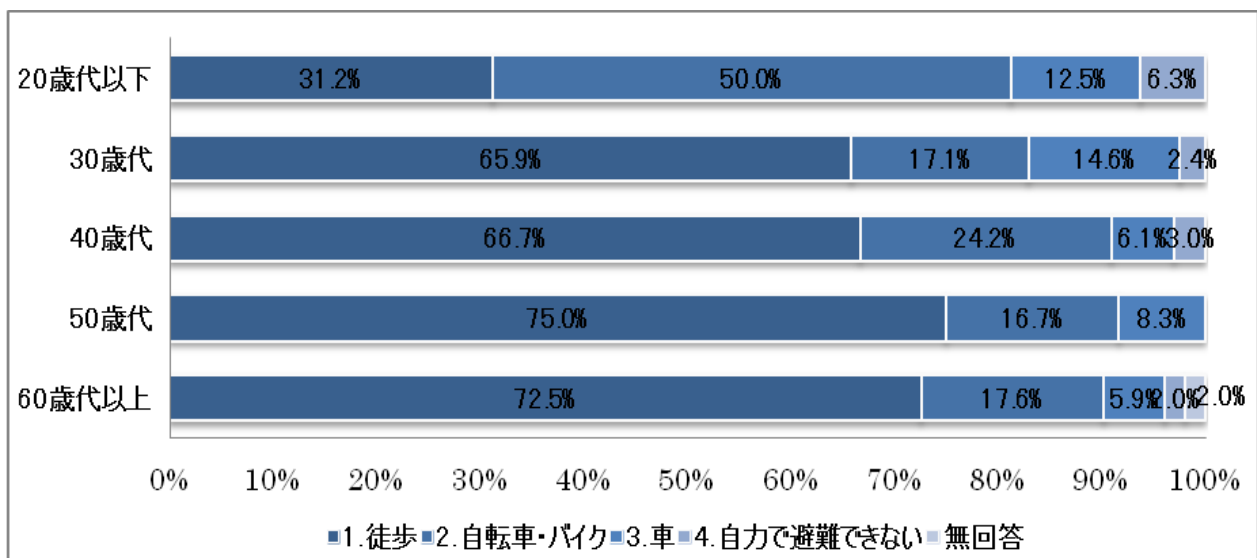
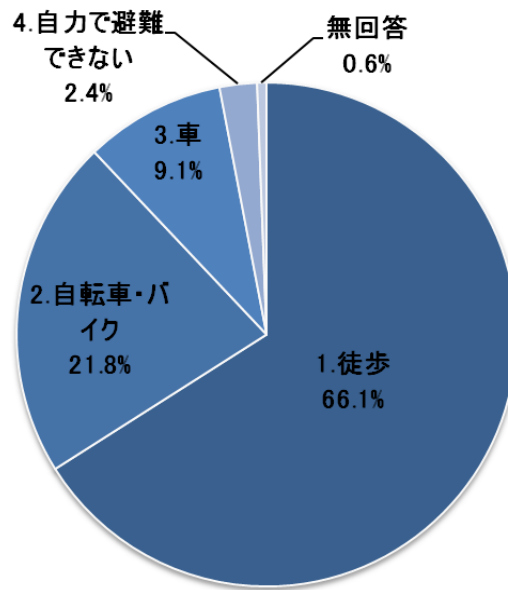
「知らなかった」と回答された方を年齢別に見ると、20歳代以下(100%)、30歳代(87.8%)、40歳代(87.9%)、50歳代(79.2%)、60歳代以上(60.7%)となっており、全体的に高い割合であるものの、年齢層が低くなるにつれて割合が高くなる傾向が現れていることがわかりました。

今後、津波に関する正しい知識などをどの年齢層に対しても普及させていく必要があります。

問7 津波の避難警報・避難勧告などが発令された場合、避難の際に何を使って避難しようと思いますか。

1、徒歩	66.1%	【109】
2、自転車・バイク	21.8%	【36】
3、車	9.1%	【15】
4、自力で避難できない	2.4%	【4】
無回答	0.6%	【1】

n = 165



【分析・コメント】

災害時には車両での避難は渋滞により逃げ遅れたり、緊急車両等の通行ができなくなるなどの恐れがあります。津波の避難警報・避難勧告などが発令された場合、「徒歩」(66.1%)で避難すると回答された方が6割以上で最も多かったものの、「自転車・バイク」(21.8%)・「車」(9.1%)で避難されると回答された方も3割以上(30.9%)おられました。

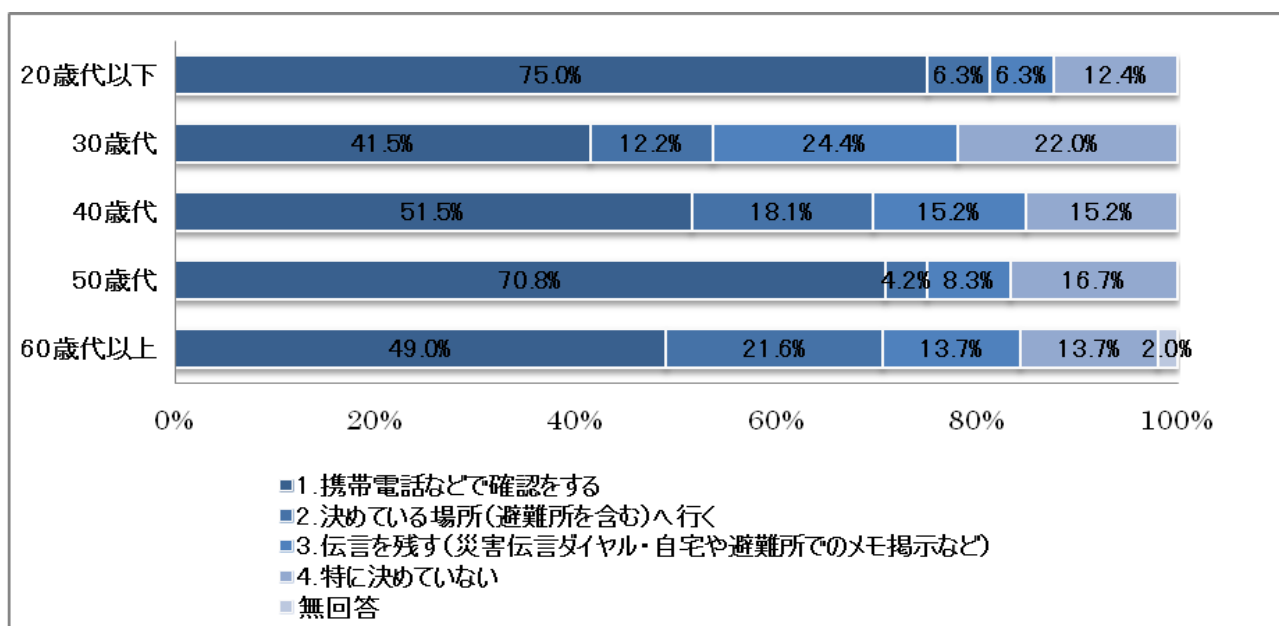
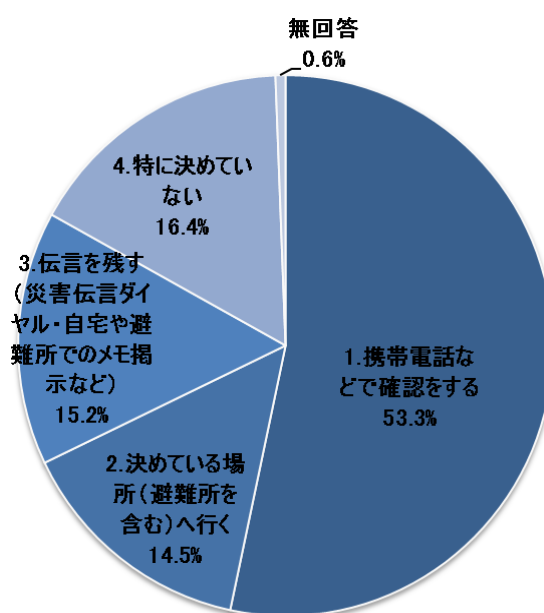
「自転車・バイク」及び「車」で避難すると回答された方を年齢別に見ると、20歳代以下の方の割合が最も高く(62.5%)、次いで30歳代(31.7%)、40歳代(30.3%)、50歳代(25.0%)、60歳代以上(23.5%)の順になっており、年齢層が低くなるにつれて割合が高くなることがわかりました。

大地震発生から津波が到着するまでの時間を考えると、あわてて車両で逃げるのではなく、徒歩により避難すべきことをしっかり周知していくことが必要です。特に、20歳代以下の世代には、重点的に周知を図る必要があります。

問8 災害発生時、家族や親せきとの安否確認などの連絡はどのような方法で行うつもりですか。

1、携帯電話などで確認をする	53.3%	【88】
2、決めている場所（避難所を含む）へ行く	14.5%	【24】
3、伝言を残す （災害伝言ダイヤル・自宅や避難所でのメモ掲示など）	15.2%	【25】
4、特に決めていない	16.4%	【27】
無回答	0.6%	【1】

n = 165



【分析・コメント】

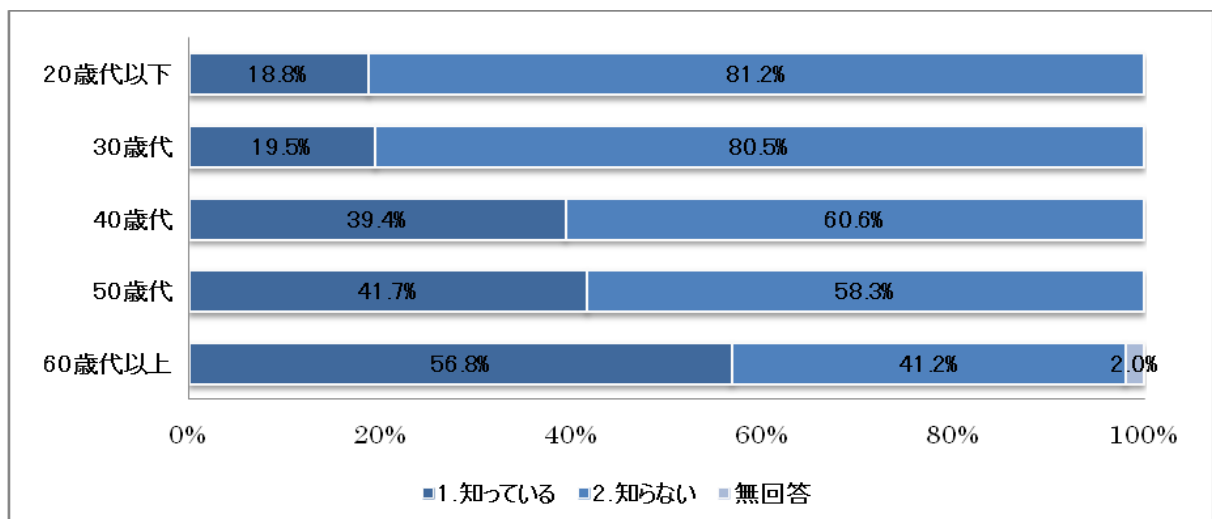
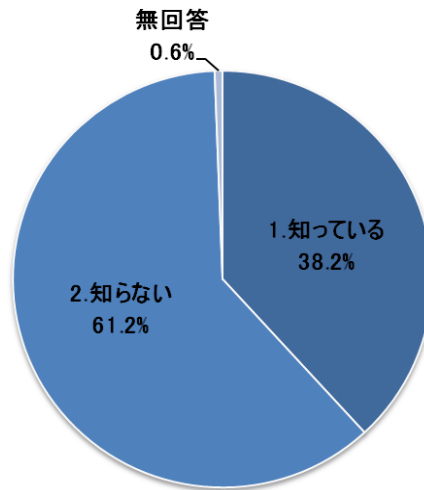
全体の5割以上の方が「携帯電話などで確認をする」(53.3%)と回答されており、次いで「特に決めていない」(16.4%)、「伝言を残す(災害伝言ダイヤル・自宅や避難所でのメモ掲示など)」(15.2%)、「決めている場所(避難所を含む)へ行く」(14.5%)の順になりました。

災害時には携帯電話などがつながりにくくなることから、あらかじめ集合場所を決めておくことが一番有効ですが、その場所に行けない可能性もあります。そういった場合、伝言ダイヤルの利用なども有効と考えられるため、今後、伝言ダイヤルの利用に関する周知を図って行く必要があると考えられます。

問9 ご近所にお住まいのお年寄りや障害のある方などをご存知ですか。

1、知っている	38.2%	【63】
2、知らない	61.2%	【101】
無回答	0.6%	【1】

n = 165



【分析・コメント】

「知らない」(61.2%)と回答された方が6割以上で、「知っている」(38.2%)と回答された方を大きく上回りました。

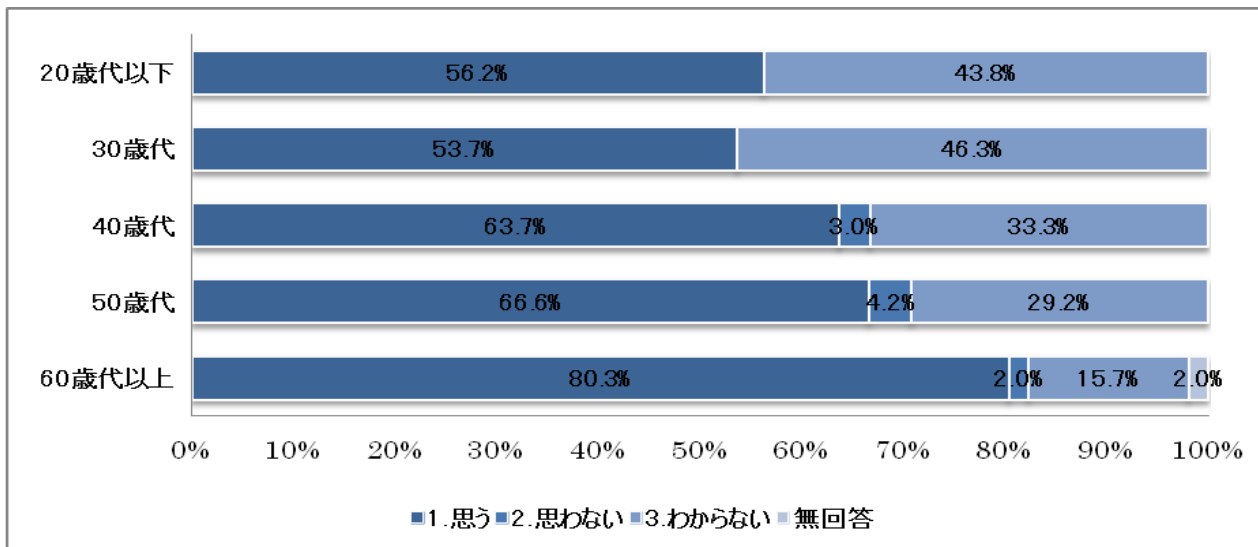
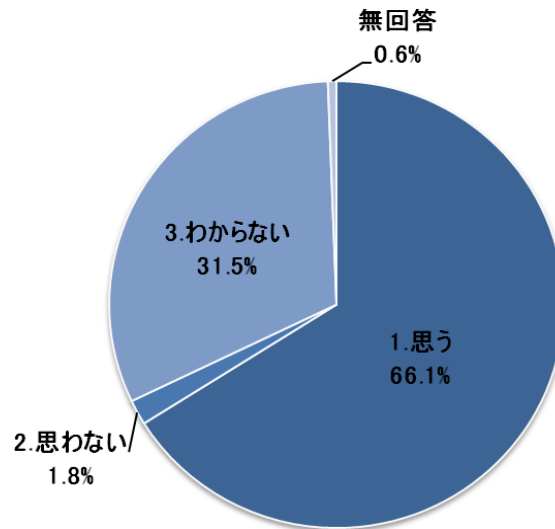
「知らない」と回答された方を年齢別に見ると、20歳代以下の方の割合が最も高く(81.2%)、次いで30歳代(80.5%)、40歳代(60.6%)、50歳代(58.3%)、60歳代以上(41.2%)の順になっており、年齢層が低くなるにつれて地域におけるお年寄りや障害のある方などの情報を持たない方の割合が高くなっていることがわかりました。

災害発生時における初期初動において、近所の助けあいを特に必要とすると思われる高齢者や障害者について地域において周知を図るうえで、特に若い年齢層を対象とした周知・啓発を行っていくことが効果的であると考えられます。

問 10 あなたは、お年寄りや障害のある方に対し、災害発生時に手助けしたいと思いますか。

1、思う	66.1%	【109】
2、思わない	1.8%	【3】
3、わからない	31.5%	【52】
無回答	0.6%	【1】

n = 165



【分析・コメント】

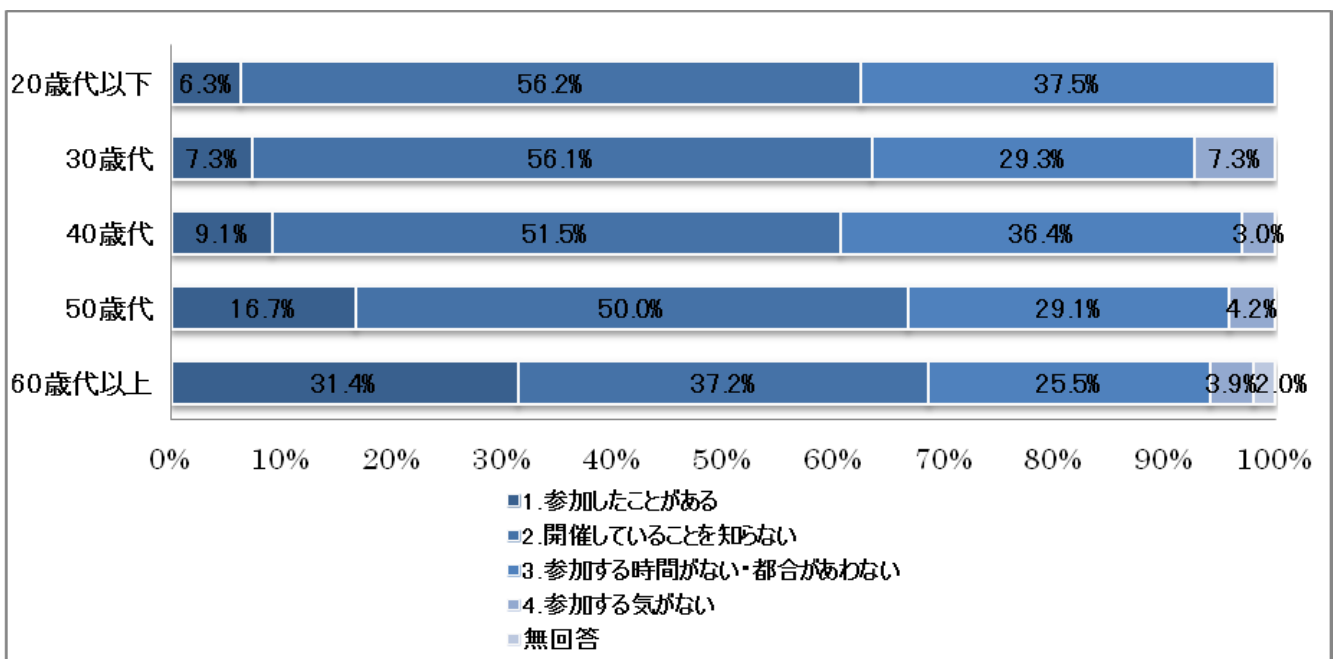
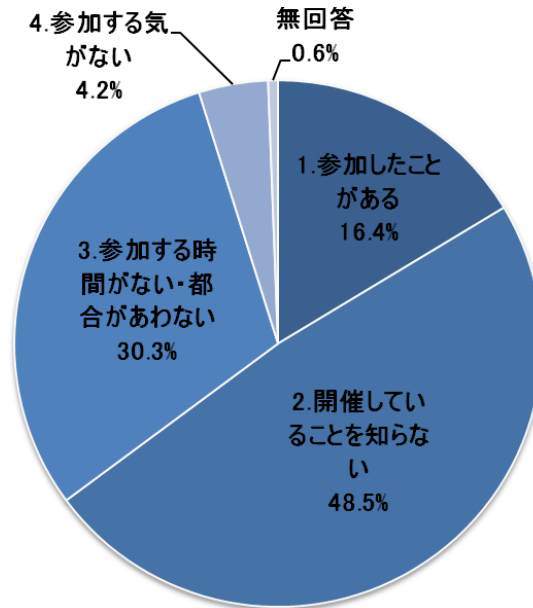
災害発生時にお年寄りや障害のある方に対して手助けしたいと思いますかという問いについて、6割以上の方が「思う」(66.1%)と回答され、「思わない」(1.8%)と回答された方はほとんどおられませんでした。しかしながら、「わからない」(31.5%)と回答された方が3割以上占めており、年齢別に見ると、30歳代の方の割合が最も高く(46.3%)、次いで20歳代以下の方の割合が高い(43.8%)ことがわかりました(20歳代以下(43.8%)、30歳代(46.3%)、40歳代(33.3%)、50歳代(29.2%)、60歳代以上(15.7%))。

この結果から、災害発生時の地域における高齢者や障害者などの援護を必要とする方に対する助けあいの重要性について、特に若年層に対して重点的に啓発等を行っていく必要があることがわかりました。

問 11 町会や区役所が実施している防災訓練や講演会などに
参加したことがありますか。

1、参加したことがある	16.4%	【27】
2、開催していることを知らない	48.5%	【80】
3、参加する時間がない・都合があわない	30.3%	【50】
4、参加する気がない	4.2%	【7】
無回答	0.6%	【1】

n = 165



【分析・コメント】

「開催していることを知らない」（48.5%）と回答された方の割合が最も高く、次いで「参加する時間がない・都合があわない」（30.3%）、「参加したことがある」（16.4%）、「参加する気がない」（4.2%）の順になりました。

「開催していることを知らない」と回答された方を年齢別に見ると、20歳代以下（56.2%）、30歳代（56.1%）、40歳代（51.5%）、50歳代（50.0%）、60歳代以上（37.2%）という結果となっており、50歳代以下の年齢層の割合が高くなっていることがわかりました。

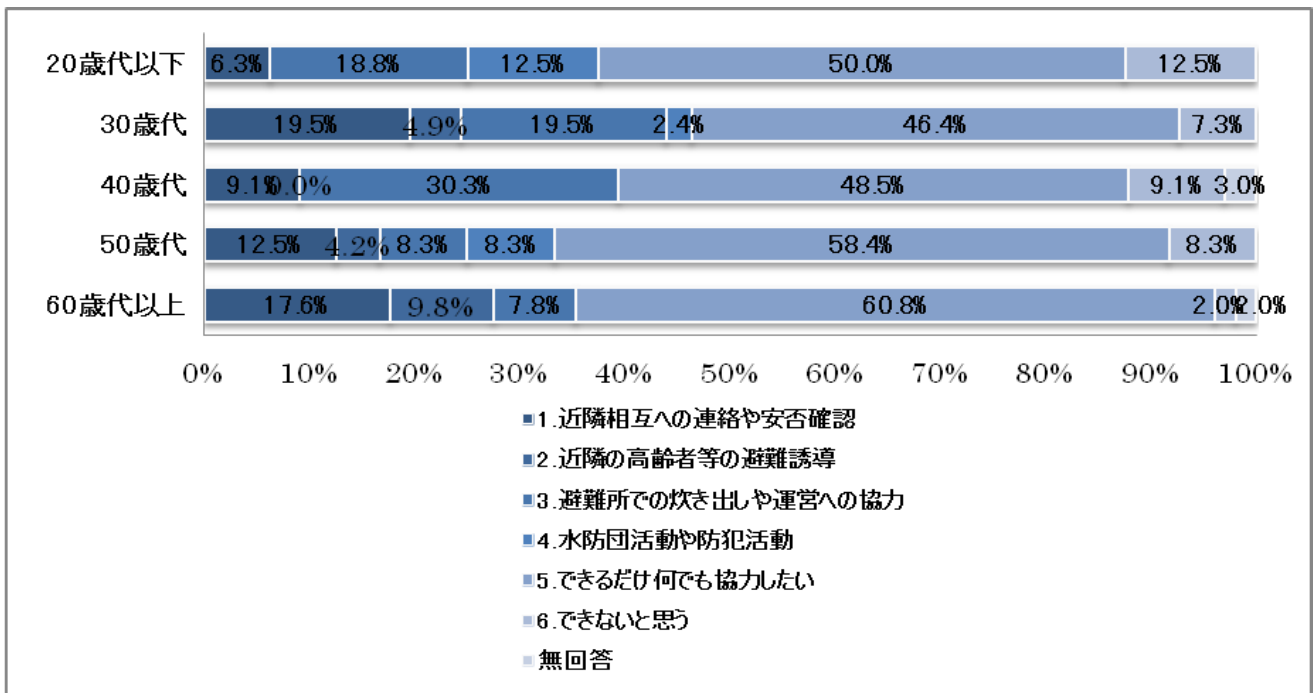
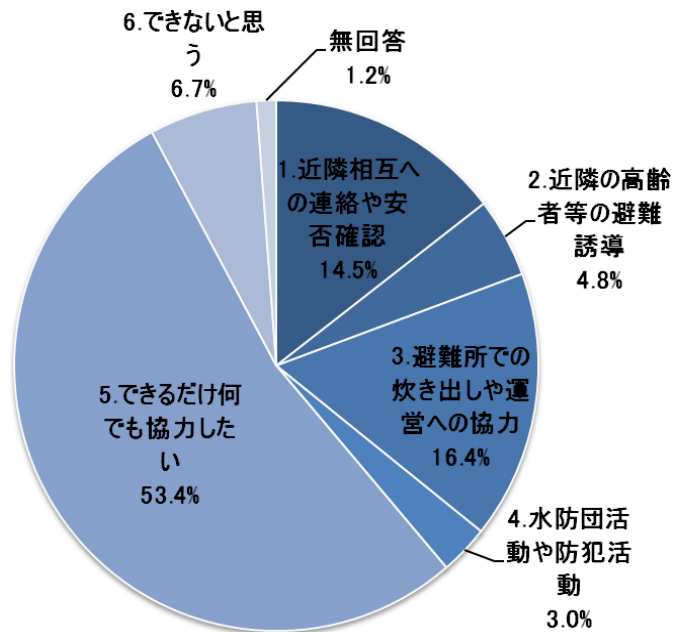
また、「参加する時間がない・都合があわない」と回答された方を年齢別に見ると、20歳代以下（37.5%）、30歳代（29.3%）、40歳代（36.4%）、50歳代（29.1%）、60歳代以上（25.5%）という結果となっており、20歳代以下の方の割合が他の年齢層に比べてやや高い割合であるものの、年齢層によって大きな差が見られないことがわかりました。

この結果から、参加する気がない人は極めて少ないが、防災訓練や講演会などの開催情報についての認知度が低いことや時間や都合が合わない方がどの年齢層にもいることから、開催について広く周知を図る方法を検討するとともに、開催時間・開催方法については画一的ではなく、バラエティに富んだイベントを企画し、幅広い年齢層の参加を促す取組みが必要であると考えられます。

問 12 災害時にあなたが地域で担える役割で最も近いものはどれですか。

1、近隣相互への連絡や安否確認	14.5%	【24】
2、近隣の高齢者等の避難誘導	4.8%	【8】
3、避難所での炊き出しや運営への協力	16.4%	【27】
4、水防団活動や防犯活動	3.0%	【5】
5、できるだけ何でも協力したい	53.4%	【88】
6、できないと思う	6.7%	【11】
無回答	1.2%	【2】

n = 165



【分析・コメント】

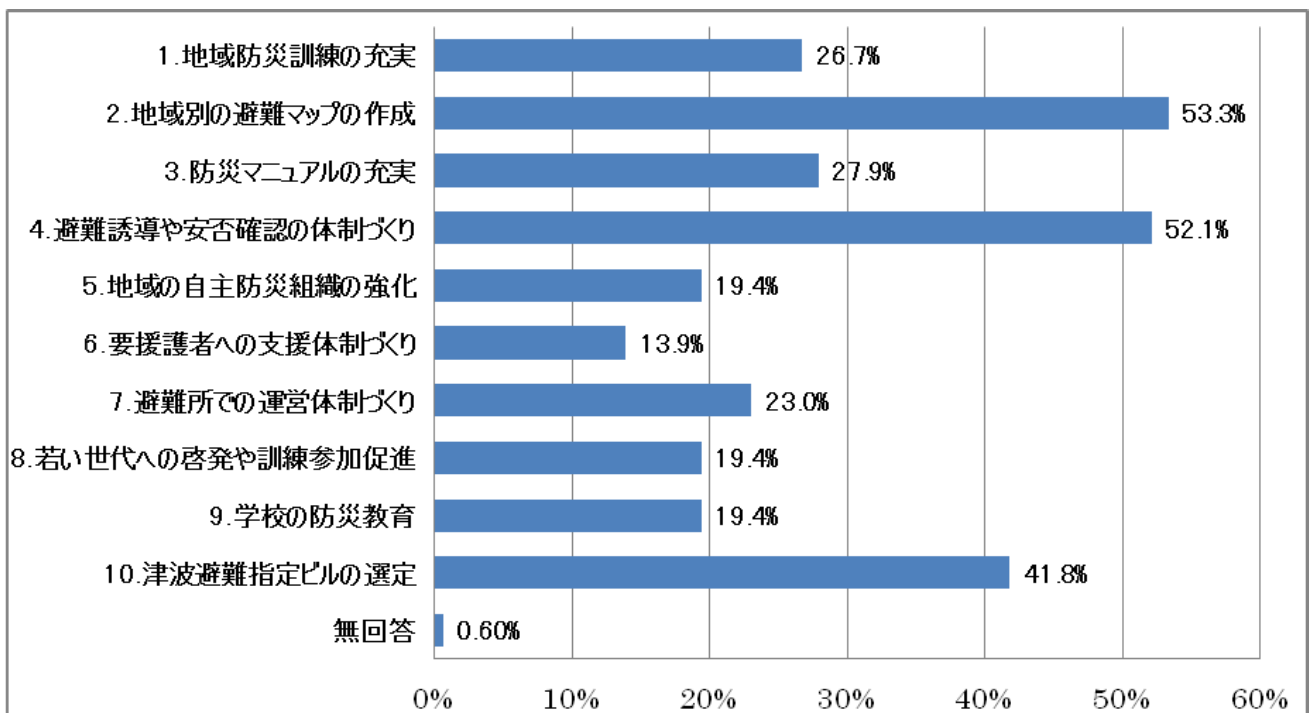
災害時に地域で担える役割について、5割以上の方が「できるだけ何でも協力したい」(53.4%)と回答されています。次いで「避難所での炊き出しや運営への協力」(16.4%)、「近隣相互への連絡や安否確認」(14.5%)といった具体的な役割を選んで回答された方の割合が大きいことがわかりました。どのような役割も担うことが「できないと思う」(6.7%)と回答された方は全体の1割に満たないことがわかりました。

「できるだけ何でも協力したい」と回答された方を年齢別に見ると、60歳代以上(60.8%)の方の割合が6割以上で最も高くなっていますが、他の年齢層の方についても5割前後の高い割合を占めていることから、今後、災害時の援助活動等について、災害ボランティアの知識や技能などの習得の機会を設けたり、いざというときに、協力し合える防災の担い手にすることにつなげていくような取組みについて周知を図ることにより、必要とされる援助活動等の担い手を確保することができると思われます(20歳代以下(50.0%)、30歳代(46.4%)、40歳代(48.5%)、50歳代(58.4%)、60歳代以上(60.8%))。

問 13 これから災害対策として優先順位の高いと思うものはどれですか。
(3つ選択)

1、地域防災訓練の充実	26.7%	【44】
2、地域別の避難マップの作成	53.3%	【88】
3、防災マニュアルの充実	27.9%	【46】
4、避難誘導や安否確認の体制づくり	52.1%	【86】
5、地域の自主防災組織の強化	19.4%	【32】
6、要援護者への支援体制づくり	13.9%	【23】
7、避難所での運営体制づくり	23.0%	【38】
8、若い世代への啓発や訓練参加促進	19.4%	【32】
9、学校の防災教育	19.4%	【32】
10、津波避難指定ビルの選定	41.8%	【69】
無回答	0.6%	【1】

n = 165



【分析・コメント】

これからの災害対策として優先順位の高いものについて、5割以上の方が「地域別の避難マップの作成」及び「避難誘導や安否確認の体制づくり」と回答されています。また、「津波避難指定ビルの選定」と回答された方も4割以上と高い割合を占めていることがわかりました。

この結果から、区民の方が災害対策としてどのようなことを求めているのかその傾向を把握することができましたので、今後の災害対策事業を効果的に進めていくうえでの参考とさせていただきます。

平成23年度第1回

此花区民モニター質問書

「地震や津波に関するアンケートについて」

注意事項：

- ・ 質問書は必ずモニターご本人で回答してください。
- ・ 回答は口の中に数字をご記入ください。
- ・ 質問書は同封の返信用封筒に入れて11月25日（金）までにお送りください。

此 花 区 役 所

問1 地震・津波に対する関心はどの程度ありますか。

(1つ選んでください)

1. 非常に関心がある
2. 多少関心がある
3. あまり関心はない
4. まったく関心はない

.....▶

問2 大地震が発生した場合、どのような危険を最も感じていますか。

(1つ選んでください)

1. 建物の倒壊
2. 火災
3. 津波
4. 液状化現象
5. その他 ()

.....▶

問3 普段から行っている準備や確認はどれですか。

(複数回答可)

1. 非常持ち出し品の準備
2. 保存食の準備
3. 避難場所の確認
4. 家具などの転倒防止
5. 自宅の耐震化
6. 家族での災害時の役割分担
7. 家族や知人との連絡方法
8. 自主防災訓練への参加
9. 日ごろの地域コミュニケーションづくり
10. 特に何もしていない



※裏面にも質問があります。

問4 被災された時の収容避難場所・津波避難場所を知っていますか。 (1つ選んでください)

1. 両方知っている
2. 収容避難場所は知っている
3. 津波避難場所は知っている
4. どちらも知らない

.....▶

問5 津波の避難警報・避難勧告などが発令されたら、どこに避難しようと思いますか。
(1つ選んでください)

1. 学校などの収容・津波避難場所へ行く
2. 区内の高い建物の屋上などに避難する (自宅マンションを含む)
3. 近隣区の高い建物の屋上などに避難する
4. 自宅の2階以上に避難する (戸建住宅にお住まいの方)
5. 周りの人々の動きをみて決める
6. 一人では避難できないため、助けを求める (待つ)

.....▶

問6 東南海・南海地震で津波が起こった際に、此花区に到達するまでの想定時間は、
地震発生から約2時間ということを知っていましたか。 (1つ選んでください)

1. 知っていた
2. 知らなかった

.....▶

問7 津波の避難警報・避難勧告などが発令された場合、避難の際に何を使って避難しよう
と思いますか。 (1つ選んでください)

1. 徒歩
2. 自転車・バイク
3. 車
4. 自力で避難できない

.....▶

※右頁に続きます。

問8 災害発生時、家族や親せきとの安否確認などの連絡はどのような方法で行うつもりですか。
(1つ選んでください)

1. 携帯電話などで確認をする
2. 決めている場所（避難所を含む）へ行く
3. 伝言を残す（災害伝言ダイヤル・自宅や避難所でのメモ掲示など）
4. 特に決めていない

.....▶

問9 ご近所にお住まいのお年寄りや障害のある方などをご存知ですか。(1つ選んでください)

1. 知っている
2. 知らない

.....▶

問10 あなたは、お年寄りや障害のある方に対し、災害発生時に手助けしたいと思いませんか。
(1つ選んでください)

1. 思う
2. 思わない
3. わからない

.....▶

問11 町会や区役所が実施している防災訓練や講演会などに参加したことがありますか。
(1つ選んでください)

1. 参加したことがある
2. 開催していることを知らない
3. 参加する時間がない・都合があわない
4. 参加する気がない

.....▶

※裏面にも質問があります。

問12 災害時にあなたが地域で担える役割で最も近いものはどれですか。(1つ選んでください)

1. 近隣相互への連絡や安否確認
2. 近隣の高齢者等の避難誘導
3. 避難所での炊き出しや運営への協力
4. 水防団活動や防犯活動
5. できるだけ何でも協力したい
6. できないと思う



問13 これから災害対策として優先順位の高いと思うものはどれですか。(3つ選択)

1. 地域防災訓練の充実
2. 地域別の避難マップの作成
3. 防災マニュアルの充実
4. 避難誘導や安否確認の体制づくり
5. 地域の自主防災組織の強化
6. 要援護者への支援体制づくり
7. 避難所での運営体制づくり
8. 若い世代への啓発や訓練参加促進
9. 学校の防災教育
10. 津波避難指定ビルの選定



--	--	--

ご協力ありがとうございました。